

ψ
ψ
ψ
ψ
ψ
ψ
ψ

第41号

執筆者

@短信

コロナ大騒動の頃号

玉村 文 新連載

今号から執筆させていただきます。京都府出身。現在、地域若者サポートステーション勤務。33歳で初めて出産し一



児の母。母親業と対人援助の仕事しながら生きる日常を書いていこうと思います。

趣味は、ヨガとイラスト描き。コロナ禍で、保育園の登園を自粛せざるを得なくなり育休を延長したことで、趣味が復活。去年まで住んでいた横浜市では、6月末まで登園自粛が延長されるそうです。コロナは育休を延長した方、在宅ワークに切り替えた方、仕事を辞めた方など、子育てしながら働く女性たちにも大きな影響を及ぼしています。東京で出産予定の妹は、病院の面会禁止、立ち会い出産もできず。目に見えない感染症のリスクを避けながら、子どもが元気にたくましく生まれ育ってほしいような環境を作っていけるようにと願うばかりです。

趣味は、ヨガとイラスト描き。コロナ禍で、保育園の登園を自粛せざるを得なくなり育休を延長したことで、趣味が復活。去年まで住んでいた横浜市では、6月末まで登園自粛が延長されるそうです。コロナは育休を延長した方、在宅ワークに切り替えた方、仕事を辞めた方など、子育てしながら働く女性たちにも大きな影響を及ぼしています。東京で出産予定の妹は、病院の面会禁止、立ち会い出産もできず。目に見えない感染症のリスクを避けながら、子どもが元気にたくましく生まれ育ってほしいような環境を作っていけるようにと願うばかりです。

応援 母ちゃん！(1)

P289～

川畑 隆 新連載

退職したことに輪をかけてコロナ自粛で withdrawal な日々。歌詞を書いて曲を付

けて歌うのは若いころからやってきたことだが、歌の詞だとなるとなかなか進まない。ところが、歌を意識せずに好き勝手に書いてみると、割とペンが進む。

まだまだ書けそうな気がするから、連載でも大丈夫かな。さて、そうなると曲が置いてきぼり。「公募ガイド」は廃刊されたと思いついていたが、まだあるじゃないか。目に飛び込んだのが「わたぼうし音楽祭」と「こころ歌創作コンテスト」。

わたぼうしは障害のあるかたが書いた詩に曲を付ける役割が公募されている。昔、「やすらぎ音楽祭」で同様のことをやっていたので、さっそくとりかかった。こころ歌のほうの付曲応募締切はもうちょっと後だ。こんなふうに、詩と曲を別々にという手があった。

対人援助活動は、自粛の重しがちょっととれかかっているか、いくつか依頼がきてくれている。やっぱり嬉しい。

川畑隆・笹川宏樹・宮井研治〔編著〕『福祉心理学—福祉分野での心理職の役割』ミネルヴァ書房 が、5月30日付で発売された。多くの人が執筆している。

「かけだ詩 ①」

P281～

天川 浩 新連載

はじめまして。今回連載させていただく運びとなりました、天川浩です。

何でもカテゴライズするのは、あまりよいことではないかも知れませんが、私はHSPという聞きなれない性格の持ち主です。この性格の人のための啓発本・対策本などの多くがHSPの当事者向けに作られていて、それ以外の性格の方にはほとんど読まれる機会はないように思います。なので、今回、私は当事者として生きてきた46年の人生で、HSPとしてどうやって生きてきたのかをお伝えすることに決めました。関係のない人には不可解で、非合理的な生き方に映るやもしれない我々のカテゴリーですが、他者の目に触れられなければ、単なる「おっちょこちょい」や「心配しい」「気弱」として解釈されることになってしまうと思ったからです。

HSPは様々な精神疾患、発達障害と結びついて、時には普通に生活することも困難になりがちです。5人に1人という高確率で存在するにも関わらず、精神疾患

基準に合致しないために精神病理学会の歯牙にもかけられない存在。そこにスポットライトを当てて、難しく語るのではなく、一人の人間の見聞をお伝えすることにしました。非常にセンシティブな内容も多く記されることになるかと思いますが(後半にはもう一段上のセンシティブな問題にも触れます)誰かの一つの物語として、ご一読頂き、HSPという人間がいると認識してもらえることが私の目標であります。どうかよろしくお伝えいたします。

ブルーグレーの肖像

P286～

篠原ユキオ 新連載

今号から皆さんのお仲間に入れて頂くことになった。大学を定年退職して2年目になる今年は、コロナのおかげでいささか最初の予定は狂った部分もあるが、やりたい事はほぼ全て思い通りに出来ているのでストレスはほとんど感じない生活を送っている。ひとり暮らしの自由さもあるが、映画DVDを毎日1本、ニュースにあわせた諷刺漫画を毎日1本、FacebookとTwitterで発表する事、なかなか読めないまま溜まっていた本を少しずつ読む事、日々思う事をテーマにしたエッセーと人生を振り返っての自分史を毎日1本ずつ書く事…。



これらがすべて悩まずに、楽しみながら出来ていることに自分でもちょっと驚きながら、アフターコロナに備えている。しかしこれがロウソクの消える前の輝きだと言われぬように、少しばかりの運動も付け加えておかねばと思っている。

HITOKOMART

P298～

原田 希 第2回

北海道では、カッコウが鳴いたら豆をまけ、という畑仕事の合図がある。道東で鳴くのは 5/20 日ごろ。ただの原っぱに見える大地も、堆肥や肥料を入れ、牧草の種をまいて成育や刈り時を見守っているのです。6月末からは1番草の収穫がスタート。牧草の良し悪しが、牛の体調、乳質、生産量、年間の売り上げに関わってくるため、酪農家はみな目つきが変わります。大家族を無事に養うぞ！ 気迫と大型収穫機の爆音の季節はすぐそこ。真剣勝負のかわいい酪農男&酪農女があふれますので、遊びに来るならこの季節をオススメします。

原田牧場 Note
p 275~

工藤 芳幸 第2回

新型コロナでこもってテレワーク。PC 作業が増えたせいか毎週末は片頭痛に悩まされ、能率が上がらない日々でした。2月半ばの言語聴覚士国家試験は無事に実施。ここまでは通常モードで進んでいたように思います。3月初旬に発達心理学会(大阪)で自主シンポジウムを企画していましたが「参集せず」ということになり事実上中止。予定は全てキャンセル。臨床現場の仕事も一旦中止。職場(大学)に出勤は継続していたものの、土日祝を埋めていたイベントが消えたので、2019年6月の大阪北部地震以降長らく放置状態だった部屋の片づけが90%終了。4月に入り緊急事態宣言が出てから完全に在宅勤務で学生のレポート課題にコメントを書いて過ごしました。4月中の記憶は曖昧ですが、感染対策をして臨床の仕事をぼちぼち再開。5月後半から大学の通常勤務も再開し、学生を迎え入れる準備中です。

みちくさ言語療法 (2)
p 278~

高名祐美

次女が、出産のため兵庫県西宮市から石川県七尾市の実家に里帰りしています。初めての出産で、大事をとって予定日より2か月も前に帰って来ました。予定日は5月28日。「対人援助学マガジン41号」が発刊される頃には、産まれていることと思

います。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、次女の夫は当初予定していたゴールデンウィークの帰省もままならないまま今日に至っています。彼は仕事も在宅ワーク、妻のいない自宅で一人寂しく過ごしていることを思うと切ない気持ちになります。そして、出産となっても病院は面会禁止。パパは赤ちゃんとは病院で対面することはできません。兵庫県も石川県も特別警戒区域。我が子に会いにくることすら、感染のリスクを考えると「自粛」を余儀なくされてしまいます。このような状況で母親になろうしている次女。出産と育児には厳しい環境ですが、この試練を娘とともに乗り越えていかなければと思っています。

大学入学と同時に地元を離れ、就職、結婚した次女との暮らしは11年ぶり。毎日が穏やかでほんわかしています。この先には赤ちゃんのいる暮らしが待っています。市内に嫁いだ長女は、孫二人(2歳と1歳)を連れて週末に我が家へやってくる、にぎやかに過ごします。91歳になる夫の母は、難聴で会話が困難ではありますが健康です。住職である夫は、お参りや法話の仕事がのきなみ中止となり、家やお寺の断捨離に励んでいます。私は3月で定年退職し、再任用として4月からも同じ職場で働いています。研修会や会議、出張など中止が続いている中、家で家族と過ごす時間が増えました。こんな毎日が「幸せ」だと感じます。新型コロナウイルスの感染が終息することを願いつつ、「ステイホーム」の日々。小さな幸せを積み重ねていければと思います。

MSWという仕事
P271~

大石仁美

新型コロナ対策の不思議

今年の2月をはじめ、横浜港に停泊中の大型客船ダイヤモンドプリンセス号内で次々と感染者が報告された時、(ん？おかしい！ただの接触感染、飛沫感染ではないな)と直感。あとで、エアロゾル感染が関係していると分かりました。2月の半ばには世界中で広がり始め、(まさかパンデミック?)という言葉が頭をよぎりました。実際に3月に入って、WHO が「パンデミック」と認識を示した時、世界中が壊れていく

ような恐怖を覚えました。医療設備が整わず、手を洗う水もない、そんな発展途上の地域で蔓延したら、一つの民族、一つの国が減ぶかもしれない。それは恐ろしい想像でした。感染を広げないためにはどうしたらいいのか。全く雲をつかむようで、何ひとつ浮かんできませんでした。ただ、2003年にサーズが騒がれていた時、防護服とマスクで完全防備をし、陰圧のケースで患者を搬送する訓練の様子をテレビで見た記憶があり、「そこまでしないといけないのか」と驚き、心に深く残っていました。

幸運にもサーズは日本に入ってきていませんでしたが、訓練とはいえ、その時のマニュアルが残っているはず。そのマニュアルはどうなったのでしょうか。まさか、単なるパフォーマンスで現実にはないと破棄したのでしょうか？

今回、初期対応の時、船内での検疫の様子などをテレビで見ましたが、抜け抜きの防御に唖然としました。

指揮官はだれなのか、国を代表する責任者は誰なのか、専門家の指揮のもとに全員が動いていたのかどうか本当に不思議です。日本には偉い先生が沢山おられるのに、指揮体制がすぐに整わなかったのはなぜなのか。

多くの専門家たちの叡智を集めて事に当たらなければならないときに、歯車がうまく回っていない、横の連携が取れていないと感じるのは、今の政府の問題でしょうか、社会構造上の問題でしょうか？

不思議なことはまだまだあります。市中感染が広がり、病院が満杯になったことで、軽症者は自宅療養という選択肢を専門家がテレビで報道しました。(ん？これはどういうことか？一人暮らしの人は、隔離は出来ても、生活ができません。買物ももちろん行けないし、しんどい時に、あるもので食べろと言われても、どうしようもない、自炊などできません。家族のいる人は、たとえ部屋が2~3室あったとしても、だれにも移さないで、家族全員が暮らせるなんて出来るのでしょうか？いろいろシミュレーションしてみましたが、少なくとも私には出来ません。これはつまり、感染したのは自己責任で、家族に移ることも承知で、国は見捨てたのだと思いました。お

金のある人は、いかようにも出来るでしょうが、一般市民は身動きが出来ません。政府のお抱え学者が、堂々と言っているのです。何故でしょう。専門的な知識があるえらい方が堂々とおっしゃる。本当に不思議です。

いろいろ書くと長くなるので、あと一つだけ。マスクについて書きます。

安倍首相が「全世帯に布マスクを配布する」と発表したときはズッコケそうでした。

なぜ布マスク？

市中からマスクが消えたとしても、一万分の一ミリという小さなウイルスが、布の網目を容易に通過することは誰でも知っているはずなのに、少なくとも医療従事者はそれを聞いて唖然とし、滑稽さに顔をゆがめて笑ったことでしょう。止める人が側近にはいなかったのでしょうか。今では、手作りの布マスクが お互いを思いやるコミュニケーションのツールとして流行になっていますが、その意味では効用があったといえるのかもしれませんが。

マスクは、中国だけに頼らず、国内の企業に働きかけて量産体制に入っていますが、思うように売れなくて、在庫がだぶつく日が近いうちに来るでしょう。本来使い捨てのサージカルマスクを、洗って使用してもいいとお墨付きを与えたのですから、購入する人が減るのは自明のこと。でもまあいいかあ 腐るものでもないし・・・ほんのつぶやきです。

病児保育奮闘記
P168～

岡田隆介

新型コロナ感染症で思うこと二つ。①32万人。これは、30年以内に高い確率で起きるとされる南海トラフの推定犠牲者数。39万人、こちらはかつての世界を席巻したスペインインフルエンザによる日本の死者。そして、新型コロナウイルスによる死亡者は 700人弱。未来と過去の3～40万と現在の約 700、不安の大きさは圧倒的に現在の新型コロナだ。過去は忘却の彼方にしまい込み、近い将来からはリアリティを消し去る鈍感さ。案外、これが心の平衡を保つ秘訣かもしれない。②PCR 検査を大幅に増やさなければならぬと主張する学者が多いが、我が国の桁違いに少ない感染者および死者数からして、そ

もそも PCR 検査を軸にこの感染症を論じること自体が問題ではないかと思えてくる。

エア絵本 -ビジュアル系子ども・
家族の理解と支援(4)-
p44～

一宮 茂子

【新型コロナで世界秩序が変わる?!】メディアで連日報道されている新型コロナウィルス感染症。この感染症は第2次大戦以来の「最大の試練」(国連事務総長)であり、ウィルスは体内に長期潜伏する可能性や、免疫を獲得できない人もいる可能性があり、パンデミックの波は何回か発生し、それが 2022 年まで続く可能性が高いとのこと。アメリカ主導の世界秩序を構造的に大きく変化させるだろうとも報道あり。トランプ大統領は、自国第一主義を押し通し、新型コロナに関する WHO・世界保健機関の姿勢を中国寄りだとして拠出金の停止を宣言。覇権の拡大をうかがう中国は、これまで 11 か国に医療チームを派遣し、127 か国に医療物資を輸送したと発表して他国への支援をアピール。日本は、「生ぬるい」対応であるが、うまくいっているように見える不思議があるという。私の自己管理は、3密(密閉、密集、密接)を避け、外出時はマスク、手洗いは頻回、社会的距離をとることです。元の生活に戻るのは無理かしら？

生体肝移植ドナーをめぐる物語
P256～

松岡 園子

4月に緊急事態宣言が発令されてから、神戸で運営している学習塾ではLINEのビデオ通話を使ったオンライン個別指導に切り替えて実施しています。オンライン個別指導をするのは、10数年前に塾の生徒さんと香川県に引っ越すことになった私とで Skype を使い、パソコンで実施したとき以来です。その頃はまだ「Skype? 何それ?」という時代でした。

今ではスマホを使って大阪の自宅にしながら、神戸の生徒さんと勉強ができる環境を簡単につくり出すことができます。宿題も写真を LINE で送ってもらえばフィードバックを返すことができ、便利な時代だなあと感じます。

今回私たちが学ぶ必要のあることは、どのようなことなのでしょう。私たちは強制的にでも環境が変われば、「何とかしたい」という気持ちに乗じて変化や工夫、チャレンジの方向へ進んでいくことができる可能性を秘めているものだと私は学びました。また、つながりや情報、人として存在することや時間など、目に見えないものの価値をもう一度、考え直してみる必要があるのではないかと感じています。

統合失調症を患う母とともに
生きる子ども
P250～

中條 興子

今号『『盲ろう者』として自分らしく生きる』の執筆をお休みさせていただきます。

新型肺炎が流行りマスクをすることが、必須、マナーとなりました。自他ともマスクをすることになり、聞こえにくくて見えにくい盲ろう者としての日常も変化しました。緊急事態宣言中も、その前後も変わらず通勤をしているため、生活のリズムの変化はないのですが、お互いの命を守るためのマスクの存在は、私にとっては移動時もコミュニケーション時も、思った以上に影響が大きいです。

影響を受けたことを、少しだけでも文学にすることを試みました。できませんでした。日々、「今」に対する判断を考えることが精一杯で、その出来事を整理して書くという事まで広げることができませんでした。

ようやく今の毎日に、少しずつ慣れ始めている気がしています。次号では、今の日常を書くことができるように、継続して整理に努めたいと思います。今後とも、どうぞ宜しくお願いいたします。

「盲ろう者」として自分らしく生きる」

杉江 太郎

児童福祉現場で働く杉江と申します。新型コロナウイルスの影響もあり、近くに住む姉弟は、家にいることを余儀なくされ、シャボン玉をよくしている。それもストローで吹くものではなく、シャボン液をつけそのまま振り回すのである。さすがに息を吹き込むという行為は親に止められているらしい。弟君がすすると、シャボン玉にならず、シャボン液がそのまま飛び散ってい

る。それでもめげずに頑張っている。そういえば、古い漫画で、とてつもなく大きなシャボン玉を作る兄弟の物語を見たことを思い出した。シャボン液には砂糖を入れるとか、風呂に入ると石鹸なしで頭が泡立つというエピソードが懐かしい。調べてみると、杉山兄弟と言うらしい。もう 70 歳を超えているのか。新型コロナウイルスが終息する頃には雨が降るたびに道路が泡立ち、新たな杉山兄弟が生まれているかもしれない。いやいや、そうなるまでには落ち着いて欲しいものである。

「余地」-相談業務を楽しむ方法- P246~

迫 共

ブックカバーチャレンジなるもののパトンを渡され、大人の自分が好きな絵本を紹介することにした。子どもの頃に好きだったのは「機関車トーマス」と「ぼちぼちいこか」だった。もちろん子どもに人気の名作絵本を読むのも楽しいが、大人だからこその読み方もある。少ない色数で、極限まで言葉を削って作った作品や、見落としそうな日常の隅々を描いた作品、読み手である自分自身や世界のなりたちについて考えるきっかけをくれる作品などだ。

たくさんある絵本棚から、自分はどのように絵本を探しているのという、パラパラと絵や写真を見て、惹きつけられるかどうかを試していることに気づいた。

絵本はページ数が限られているなかに、絵と言葉を分かりやすく配置しなければならない。厳しい条件の中でも視覚的に惹きつけられる作品は、自分にはたいてい面白く読めるようだ。いつか絵本論というテーマにも挑んでみたい。

保育と社会福祉を漫画で学ぶ P242~



朴 希沙(Kisa Paku)

私は普段マイクロ・アグレッションについて連載をしています。しかし今回は緊急企画として、新型コロナウイルスに関するインタビュー記事を書いてみました。インタビュー相手はかの有名なあの先生…!!ではなく、京都在住の一市民である某 I さんです(笑)某 I さんはご自身の興味や家庭の事情から、コロナ流行が始まったところから日夜新型コロナに関する勉強を深めてこられたそうです。今回は普段私が感じている素朴な疑問を色々聞いてみました。「〇〇の専門家」だけでなく、こういった一般の人たち、一市民たちが自分たちで情報にアクセスし、調べ、議論しあっていくことが大切ではないかと思っています。どうぞお楽しみに^^

マイクロアグレッションと私たち P237~

浅田 英輔

先日、久しぶりに県本庁での会議があった。参加者は 20 名ほどだが、一番大きな会議室を使い、かなり間を開けた配置となっていた。会議の中身は情報交換がメインだが、発言者がこちらをみて「オマエも言いたいことあるだろう?」みたいな目配せをしてきたり、「これはあの方のほうがよく知ってる」みたいにその人のほうに目を向けたり、そういう動きは Web ではどうやればいいかなーと思った。また、会議開始前後にほかの参加者と、あれはどうなった?これはどうしてる?という会議の本筋以外の情報交換をしたり、脇で話してる別の人の話が聞こえたので「それはこっちではこうしてるよ」とはまっていったりした。また、会議後には関係各課を回って、細かい話を聞いたりしてきた。新しい課長が下北の動きを実際に見たいらしい。など、こういうところは Web 会議ではできないよなあ。「こんな会議、Web で十分!いやむしろやらなくていいわ!」っていうものも多いのだけれど、たまには顔あわせて話したいものだ。

臨床のきれはし P131~

三浦 恵子

新型コロナウイルスを巡る状況はいま

だ厳しい。ステイホームが盛んに叫ばれた GW も過ぎたが、帰る家がない、家があっても安心できる居場所ではない人々に思いを寄せてくださった方が、少しでも多くいることを願いつつこの文章を書いている。

そうした人々を支援する人達や場もまた厳しい状況に置かれている。相談支援の場における感染防止対策もそうだが、フードドライブなどが休止されていることも大きなダメージだ。

依存症や障害をお持ちの方の支援に業務外で関わって長い、イベント等の中止で授産製品の販路が狭まったり、啓発イベントの中止で収入が断たれるなどどこも苦しい状況だ。

「顔の見える関係」が大事だと言われた対人援助の形を改めて考えさせられることも多い。

様々な情報が瞬時に入ってくる現代社会だが、不安を煽る情報を探すのではなく、こうした情報に意識して触れたり考えたりすることができる時間を大切にすべきだと実感している。

更生保護観音署職員

(認定社会福祉士・認定精神保健福祉士)

現代社会を『関係性』という 観点から考える P233~

関谷 啓子

休載

私の出会った人々

黒田 長宏

本文で紹介を続けさせていただいている個人事業の『婚難救助隊』の確定申告を目指すために、マイナンバーカードや IC カードリーダーなど揃えたのだが、売り上げゼロということで今回は必要なくなっていたが、思わぬ特別定額給付金ということで、思わず出番がやってきて、結局オンラインで申請できた模様である。郵送だと 5月25日からで、オンラインだと3日が私の居住させていただいている自治体の期日だと自治体のホームページでみたので、22日も早期にオンラインだと申し込めることになる。しかしパソコンやスマホなどできない人はできないわけだから、そこらへ

んが格差というカリテラシーというのか、それを思ったが、私はできる側だったのでラッキーだと思った。やってみると、パスワードを忘れていたら、もしくは控えを紛失していたら、役所までいく必要がある。これは新型コロナウイルス密集の危険に入り込む可能性がある。実際、東京の某所がニュースでそうなってしまったと報道されていた。他にもいちおう私が世帯主ということなのだったが、母親の名前を書き忘れると私の給付金だけになってしまい、フォローが面倒なことになると思ったり、通帳やカードの写真をパソコンやスマホにアップロードしたりして、そういうことも必要だったり、誰もが楽にできることでもないと思えた。だいたいオンラインなどする人たちはもともとパソコンやスマホを常時使用していて慣れていたりして、その人本人にとっては結構便利にできたと思うだろうが、他人にとってはそういう人ばかりではなからうという思いもある。物覚えのスムーズな人ほど、他人の苦勞する仕組みだと思わず、便利とだけ発信してしまうものだ。しかし、最初の政府の30万円を一割の人々に給付するという案から、国民が不満を持ってアピールして、十割の人々に10万円という建前に変更できたというのは民主主義も機能することもあるんだと感じたが、本当なら、国や自治体のほうが、申請制度ではなくて、給付が国民全員にいきわたるように努力して配布しまくるほうが良心的な国家なのには思いが残る。しかし、これを書いている時点では、ゴールデンウィークは結構国民全体で辛抱したが、明けたら早速緩みが出ているようで、まだまだ収束してきたとは言えないんじゃないかという不安定な状況。次回はどうなっているんだろう。(5月9日)

<https://konnankyuuujotai.jimdofree.com/>

ああ結婚

P213~

山下桂永子

この3か月間、学校は休校でも、職場の教育相談が休止になって面接はできなくてもやることはたくさんありました。考えさせられることもたくさんありました。人間の情報を扱う仕事だとは思っていましたが、この数か月ほど知識と情報を扱う力が問われることはないなと思っています。

そしてもう一つ思ったことは、人や物との関係性が問われるなということでした。普段から目に見えない人間関係の距離感に不安を持ちやすいならば、目に見えないウィルスとの距離感もうまく取れないで不安になると思うのです。不安は時に怒りや攻撃的な感情に化けてしまうので、とても扱いにくくなってしまいます。私自身は目に見えないものを割とおざなりに扱ってきたなと思うので気を付けたいところです。

今回の町家宿舎についての話は目に見えるお金というものを扱っていますが、やはり書いてみると目に見えないものを扱っているような気がします。読んでいただければ幸いです。

町家宿舎 in 京都

P191~

尾上明代

ステイホーム期間に、多くの人々がそうしているように、私も頻りに近所の散歩をするようになった。すると、かなり近くにちよつとした山道と林があるのを発見。調べてみると多摩丘陵の「よこやまの道」という、古代の幹線道路が通っていたルートであることがわかった。



名前の由来は、多摩丘陵が万葉集で「多摩の横山」と呼ばれていたことからだという。その登り口の一つが、家のすぐ近くの住宅街にあり、(介護もあるので本格的ハイキングをする時間はないが)ちよつだけ登って森林浴をして帰ってくるくらいでも充分な楽しみの一つになった。こんな素晴らしいところが、すぐ近くにあったなんて！ 林の中に身を置いて深呼吸をし、鳥のおしゃべりを聴くことで、ここまで癒される感覚になるのは、今までの人生ではなかった。ずっと忙し過ぎて、近所では駅との往復と車で買い物しかしていなかったこ

とを大反省するとともに、この状況からの感謝すべき贈り物だと思った。

登り口付近の野草や山道に咲くお花たちに出会うことにも幸せを感じる。最近、数日ぶりに行ったとき、美しい素敵なお花が、忽然と現れて咲いていた。写真に撮り、花の名前がわかるアプリで調べたところ、キンランという蘭の一種だとわかった。なんか嬉しくて、可愛くて…こういうことにこんなに心躍ることも今までなかった。それだけ、自然の命が感じられるものを無意識に求めていたということなのだろうか。そして二日後、「またあのキンランさんに会いに行こう！」と思いながら(大袈裟ではなく、本当に「会いに行く」という感覚だった)現場に着くと…あれ？…ない！！突然消えてしまったかのように、根こそぎなくなっていたのだ。相当ショックだった。かなりへこんだ。誰かの家の庭ではないけれど、それでも、そのキンランさんは、その山道に属していたものでしょう。そこを通る人たち皆の目を楽しませてくれる存在でしょう…。花泥棒、ということばがある。私のものを盗まれたわけではないけれど、確かな喪失感があった。今ごろ、どこにいるんだろう。

その子孫(?)が、まだ少しでも土の中に残っていて、もしもまた来年会えたらすぐ嬉しいのだけれど…。期待してみよう。

ドラマセラピーの実践・手法・研究

P87~

松村奈奈子

コロナ禍。

いろんな方がいろんな事を発信していて、共感したり考えさせられたり。ただ、たくさんの方が感じている様に、私も自然をより強く意識するようになりました。職場への車から見えるいつもの町並、春の新緑がより強く見えたり、初夏のキラキラ太陽がやたらとまぶしかったり。自然はいつもどおりなのになあと思います。人間があたふたと、いつもと違う時間を過ごしているからなんでしょうね。

精神科医の思うこと

P177~

鶴野祐介

今年も毎夜ヤモリ君が自宅書斎の窓ガ

ラス越しに現れ、羽虫や蛾をハンティングする時候になりました。セクシーな白い腹をペタッとガラスにくっつけて息をひそめ、やおら身体をくねらせて獲物の方へ駆け出して、その静と動の妙を愉しんでいます。

うたとかたりの対人援助学 P208～

柳 たかを

夏の高校野球

5月中旬の現在、外出自粛徹底の効果と思われる新型コロナウィルスの新たな感染者が減少してきていることを受け、日本政府の緊急事態宣言が一部の都道府県を例外としながらも解除となった。

コロナ禍による自粛在宅期間が長引かなかで、人は社会的肩書きで評価される社会人ではなく、両親から生を受け人生を歩む生活者であることを思い出されているように思う。

春の選抜高校野球の中止に続き夏の甲子園も中止になるかどうか、20(水)に高野連の発表があるという。(発表前に書いています)

いろんなイベントやプロスポーツ大会が自粛や無観客試合を選択せざるを得ないのも気の毒だが、高校生の選手一人一人は二度とない青春に汗と努力の末の真剣勝負をコロナのせいで諦めざるを得ないのは彼らに長く消えない心の傷を残すのではないかと心配する。

知恵を絞れば三密を避け観客も応援も無し、実況放送は出来るだろうし必要最小限のスタッフと選手たちだけで「投げて・打って・守って・走る」試合、高校野球精神の初心にかえれば開催出来る道があるのでは？

満員のアルプススタンドからの大声援を背にプレー出来ない悔しさは残るだろうが、開催されないよりははるかに幸せだと思いたい。

「感染者が出たら誰が責任をとるか？」という問題をないがしろに思っていない。でも「コロナは危険なんだから自粛！」分かるが、まだどうぶんは続くだろうコロナとの戦いに気を抜かずモチベーションを保ち続けるためにも創意工夫のある戦いかたを皆で考えたいものだ。

東成区の昭和 思い出ほろほろメモ P183～

齋藤 清二

3月以来のCOVID-19(新型コロナ肺炎)のパンデミックに、世界中が巻き込まれ、翻弄され続けてきた数か月でしたが、日本ではようやくそれなりの落ち着きを取り戻しつつあるように見えます。大学と大学院の授業は全て遠隔授業に切り替えられ、大きな生活の変化の中でこそ見えてくるさまざまな新しい気づきを、どのようにして生活の中に落とし込んでいけるかが次の課題となっているように思えます。

さて、これまで、約5年間にわたって「『あ！萌え』の構造」と題したエッセイを対人援助学マガジンに連載させていただきましたが、一応、前回の第40号をもって終了とさせていただきます。私にとっては、純粋にボトムアップで執筆していくという他の場所ではほとんど行うチャンスのない試みをこのマガジンで続けさせていただき、そのため毎回の内容はどこに落ち着くか分からないグダグダであったり、苦し紛れの再録であったりして、読んでいただく方には迷惑をおかけしました。「萌え」概念が、社会的にみてももはやあまりにも一般化してしまったことと、近年台頭してきた「推し」概念についてもある程度の把握ができたということでした。このへんで筆をおこうと思います。

「志向性」「指向性」「嗜好性」というような抽象概念でくられる「私たちにとって根本的に重要な何か」についての考察は、機会があれば何らかの形でまとめてみたいと思っています。

小林茂

少し暖かくなって衣替えをしたら、このところまた寒くなって体を冷やしてしまいました。少し風邪気味で過ごしています。

大学教員生活2年目に入り、昨年よりも多少落ち着くかと思っていたら、新型コロナウィルスの影響でオンライン授業対策に追われるようになりました。どこか、ふつうに生活を送りたいという気持ちでいるのですが、なかなかそうはさせてくれないようです。

しかし、大学で教養ゼミナールという任意で開講できる科目を通じて死生学を講

じています。そのためか、あらためて歴史に残るような出来事の渦中を過ごすのは得難い経験であると感じるようになりました。生きていけば、いろんなことが起こることを思われます。

<温泉紹介>

☆北のたまゆら 江別店(北海道北海道江別市野幌屯田町48-1)

江別3番通り沿いにあるスーパー銭湯「北のたまゆら 江別店」。温泉はコーヒー色の「炭酸水素塩・塩化物泉」で、ヌルヌルとした浴感があるのが特徴。その他、電気風呂、ジェットバス、サウナなどもある。

料金:大人450円(13歳以上)

温泉質:ナトリウム - 炭酸水素塩・塩化物泉(弱アルカリ性・低張性・温泉)

泉温 加温あり・加水なし

浴用適応症:神経痛、筋肉痛、関節痛、五十肩、関節のこわばり、打ち身、くじき、痔疾、冷え性、慢性消化器病、病後回復期、やけど、慢性皮膚病、慢性婦人病、きりきず

営業:8:00～深夜1:00(受付終了0:00)

年中無休

対人支援 点描 P172～

中島弘美

家族カウンセリングをしている中島です。緊急事態宣言により対面での面接をお休みしていました。今少しずつ再開しています。相談に来られた方から「やっぱり電話とかよりも、実際に会って話すほうがいい」ということでした。

担当している大学や専門学校の授業は、遠隔授業や課題提出型授業に変更になり、教材づくりをもくもくとしているところです。

今後、第二波に備えて、電話や画面を通してのカウンセリングを増やしていきたいと考えていますが、パソコン等の画面を通してのカウンセリングについては、家で落ち着いて話せないとか、できれば直接会う方が話しやすいとか、面接のために大阪駅周辺に出てくるのがたのしみだから対面がいいなどの皆さんの思いを確認しつつ、新しいスタイルも試みていきたいと思っています。

カウンセリングのお作法 P35～

藤 信子

この5月は、若葉はきれいだけれど、雨が
多く気温の変動も大きく、風薫るという
感じにはあまりならないのが残念だった。
緊急事態宣言の中、長めの散歩ができな
いのは、お天気のせいではなく、1月下旬
に脚を怪我したので、今は以前の様に長
くはまだ歩かないでいる。怪我をしてわか
ったことは、あまり使わないで瘦せた筋肉
を戻すには、結構時間がかかるという
ことだった。今も室内でステップ運動をし
ている。

そう考えると、3月に退職するまで長い
間使ってきた身体も、偏った使い方をし
ていたのかもしれない。特に脳。今更バラ
ンスよい身体や脳を、とは望まないけれど、
この機会にしばらくゆっくりして、身体と頭
をほぐしておこうと思っている。

集団精神療法について P41~

FRANKIE KNUCKLES PRES. DIRECTOR'S CUT STARRING INAYA DAY
(M&S REMIXES)



団遊

読書が好きだ。特に巣ごもり中はやる
ことがないから、本ばかり読んでいる。新
刊が出るたびにいち早く購入するお気に
入りの作家が何人かいる一方で、ガッカリ
するのを避けたくて、読むのを控えている
作家もいる。思い出は良い形で取ってお
きたいからだ。

ところが、あまりに時間があるので、そ
んな作家の新刊もいくつか読んでみよう
と思いに取った。かつて直木賞も取ったS
さんの上下巻組新刊だが、読後、やはり
止めておけばよかったと思った。20年前
から、書いていることが何ら変わらないよ

うに、ぼくには思うのだ。読者の勝手な感
想で甚だ恐縮だが、読み進めるうちに、な
んだか気の毒なキモチになってくる。

少し前のことだが、音楽業界の友人が、
「サザンオールスターズはどうして常にヒ
ット曲を出せるのに、長渕剛は結局往年
のヒット曲に戻るのか」という話をしてく
れた。

両者と仕事をしたことがある彼は、「発
信したいメッセージを常に進化させてい
るかどうかの差だ」と言っていた。桑田佳祐
さんは、若者の文化や時代の空気を吸収
したいという意欲が非常に強い一方で、
長渕剛さんはその点が欠けるという。結
果的に、コンサート会場の顔ぶれが常に
フレッシュになるサザンと、お馴染みさん
で染まる長渕剛の差を生むという。

表現者として、どちらが幸せかは、価値
観の違いだから一概には言えない。常連
さんキープに骨を折り、売上の安定を図る
というのは、戦略的には正しい面もある。
ただ、少なくとも私は、サザンのようにヒ
ットを生むことができなくても、メッセー
ジを進化させることに貪欲な自分でいた
いなあと、話を聞きながら思った。

人を育てる会社の社長が、 今考えていること P33~

村本邦子

コロナ禍で在宅リモート、この3ヶ月ま
たく外食していない(正確に言えば、3月
に一度だけ東京出張したので、その時の
み例外)。毎日、食べ物中心に生活が回
る夢のような日々だ。

食べることは生きることだし、生きるこ
とは食べることだ。細部にこだわらな
ければ、たいがいは自分で作れるし、それ
なりにおいしい。ふだんは自分で買い物
に行く暇がないので、季節の物ははずし
てしまうが、散歩ついでに店先をのぞ
いて、ざるに山積みされた安い野菜や果
物を見かけたから、それは旬の物だ。あ
れにしよう、これにしようイメージが膨
らむ。最近、オンラインで仕事も日常化
しつつあるので、時間のやりくりととも
に段取りするのも楽しみ。もちろん、そ
の場の気分で予定を大き

く変えることも多々あり、思いがけない
メニューになるのもまた楽し。

木々の緑や花々、雲の形、鳥の鳴き声、
風の香り…季節の移り変わりを感じな
がら、自然の恵みを存分に楽しんでいる。
地球というひとつの船を共有しながら、し
みじみと命が繋がっていることを感じる。

周辺からの記憶 —東日本大震災

家族応援プロジェクト(22) P148~

國友万裕

加藤直哉さんの『人は死んだらどうなる
のか』という本を読みました。

死生学というか、臨死体験をした人た
ちのデータを分析して、真面目に死後の
世界について考えた本です。この本を読
むと、どうやら、人を傷つけるようなこ
とをすると周り回って自分が傷つけられ
、善行を施すと自分にも徳が帰ってくる
という因果応報の法則は古今東西の研
究で共通しているようです。

世の中には自分の都合で罪もない人
を踏みつけにするような人というのは確
かに存在します。僕もそういう人から負
わされたトラウマを背負っています。もち
ろん僕のほうも知らず知らず人にトラウ
マを負わせてきている可能性はあります。

この本によると死ぬと走馬灯のように
自分が傷つけた人の姿が現れるのだそ
うです。僕が死ぬほど憎んでいる人、復
讐したい人は死ぬときに僕の姿が彼の
脳裏に浮かんでくるんでしょうね。そし
て、僕が死ぬときにも誰か僕が傷つけ
た人が現れることになる。さて、誰な
のでしょうか？ 往々にして人間は自分
を傷つけた相手のことは覚えているけれ
ど、自分が傷つけた相手のことは忘れ
ていることが多いです。

死後の世界で、そのことに直面する
ことになるんですね。そう考えれば、こ
れからは真摯に生きなくてはという気持
ちになります。いい本でした。

男は痛い！ P120~

古川秀明

新型コロナウイルスの影響で2月から

講演会&ライブはすべて中止になりましたので、今回はいつもの「講演会&ライブな日々」ではありません。それはそれで新鮮でした。

講演会&ライブな日々 P138~

西川友理

京都西山短期大学で、保育士・幼稚園教諭の養成をしています。それから、支援者に向けた当事者研究会や勉強会を定期的に開催しています。その他社会福祉士養成などにもちょっと携わらせていただいています。

本誌連載、「接骨院に心理学を入れてみた」の寺田先生が、去年の12月のご自身のブログに、わたくしの連載を紹介してくださいました。患者さんにも紹介して下さったとの事。なんと嬉しい……ありがとうございます！

皆さん、寺田先生の施術はほんとに科学的なのに、魔法のように体を解き明かしていかれる不思議体験です。すごかったですよ！コリや痛みのある方、ぜひぜひ！

ここ最近、フェイスブックで「7日間ブックカバーチャレンジ」がなんとなく流行っています。

「1、7日間、自分の好きな本の表紙をFBにアップする 2、毎日1人にバトンを回す 3、本についての説明はしない」というのが基本ルール。とはいえ、このルールはゆるゆるで、「1日で7冊UP」「3日間だけ実施」「誰にもバトンを回さず、自分だけで終了」など、皆好き勝手に解釈して実施しています。私のところにもバトンが回ってきましたので、バトンは数名だけにわたす、ということにして実施しました。

いつどこから始まったのか、少し調べたのですがまだはっきりわかりません。どうやら2018年ごろに海外にすでにあった、という噂もネット上で見つけましたが、明らかに今年の4月くらいから爆発的に広まっているように感じます。おうちにいることで本を読む機会が増えた、なんとなく周りとのつながりが欲しい、といった、コロナの影響も大きいと思います。

これ、やってみて感じるのが、「本を紹介するのもされるのも楽しい」ということ。そして「本をUPした上で、説明をしない、

というのはなかなか難しい」ということです。ついムズムズと言いたくなってしまうのです。だって好きな本ですから。このチャレンジをしている友人の記事を見ても、ほとんどの人が紹介文を書いています。

私は昔、人前でしゃべるときに緊張するたちでしたが、ある時、「私が見られてる、と思うから緊張する。私が好きなもの、興味があるもの、価値があると思うモノを「ほら、すてきでしょ」「面白いでしょ」「すごいじゃない?」「すごいでしょ」と、紹介するつもりで話してみてください。みんなはあなたを見てるんじゃないで、あなたといっしょに、その“すてきなもの”を見てる。あなたは自分の感じるそのすばらしさを紹介するだけでいい」と教えてもらってから、ほとんど緊張しなくなりました。

好きなもの、すてきだなとおもうものを語る時、みんな少しだけうきうきして、その言葉も踊っています。いまさらながら、好きって強い、と思います。

福祉系対人援助職養成の現場から p71~

坂口伊都

娘が一人暮らしを始めたのですが、このコロナ騒ぎで長いこと家に滞在していました。こんなことなら夏以降からにすればよかったと後悔してしまいますが、緊急事態宣言が解除になり、そろそろ戻ろうかなと娘が言い出しているの、自分でやろうという気持ちが出てきているようで、まあいいかなとも思っています。

娘の引っ越しを期に我が家の方も模様替えをしました。寝室だった部屋を私の部屋にし、夫には夫の部屋を作りました。めでたく家庭内別居です。もちろん、先人たちの夫婦の距離の取り方を参考にしました。近過ぎない方が上手いくと言っていました。自分の部屋を持つのは、20年以上ぶりです。娘の部屋に残っていたお下がり家具を持ってきて、恐ろしくて触っていなかった所にも探検に行き、坂口さん家の掘り出し市から出てきたいろいろなモノが目の目を見ます。子ども達の赤ちゃんグッズとかも出て、「懐かしい」「かわいい」「若い~私」と手が止まることもしばしばでしたが。

この部屋ができたおかげで、思いもなかったテレワークも落ち着いてすることが

できました。2階に働きに行くと、1階に帰るという気分です。でも、職場で寝るのたまに仕事をしている夢を見る率も上がったような気がしなくもないです、はい。

家族と家族幻想 P143~

河岸由里子(臨床心理士)

北海道 かうんせりんぐるうむ かかし 主宰

【zoom, zoom】コロナウィルスの関係で、あれこれ zoom で行うことが増えた。会議は zoom、カウンセリングも zoom、大学の講義も zoom、飲み会も zoom。全く初めて使うというわけではなかったの、比較的スムーズに使えてはいるが、色々とお金も増えた。

持ち運び可能な Wi-Fi のギガ数を普段以上に使うことになったので、ギガ放題に切り替えた。家で使うものは Air があるので問題ない。ただ、家で zoom を使うには、部屋の配置でバーチャル背景がうまく使えなかったの、グリーンスクリーンをセットで購入。売り切れになってしまったヘッドセットもあちこち探してようやくゲット。ライトも思ったが、それは娘の机上スタンドを活用。こうして、準備万端。

さっそく大学の授業の第一回目の講義を zoom で行った。それに向けて、大学では moodle というシステムを使って授業登録や出欠管理、資料配布、連絡などを行うことになり、私も授業一週間前までに資料をアップしたり zoom の ID とパスワードを送ったりと増えた手順をこなしていった。当日は、大学の教室から講義を行った。

それは無線ランを使えるからで、家や事務所からだどうしても Wi-Fi を使わずを得ず、そうすると不安定さが出るし、ずっと家に籠ってばかりいるので、大学で行う方が気分も変って良いかと思ったからである。

そして、指定された教室に行き、パソコンをセットして、学生さんたちが zoom に入ってくるのを待った。8時50分からの授業に対し、8時50分までには待機室に入っているようにと伝えていたが、案の定、8時50分すぎから、ポロポロと入室許可申請が画面に出る。1回目なので9時までは良しとして、自己紹介やらガイダンスなどしながら、入ってくる学生への許可をしていた。しかしその間も、「入れない」「入

ったけど落ちた」「もう一回入りなおす」「どうしたらよいか？」などのチャットが送られてきて、それへの回答もしなければならず、てんやわんやであった。

結局授業最後的小レポートの提出も、moodle でほとんどの学生さんが出してくれたものの、数名これができず、メールで送ってもらうことになった。早速送られたレポートにコメントを入れた。今回の登録者はいつもの半分くらいなので助かる。その後、zoom に入れなかった人を対象に、個別の zoom ミーティングを数回設定し、上手く入れることを確認、第2回目の授業で待っていると伝えた。これで一件落着。ふっ。

一体いつまでこの形で授業を行うのだろうか？サポートに来てくれた大学職員の方は今年度いっぱいとは考えているとか…。

Zoom, Skype, Teams, etc. 色々なツールが増え、便利になった。メールでのやり取りも頻繁にある。パソコンはじめ Tablet やスマートフォンにも慣れた。それでもやはり直接会って話す方が疲れない。昭和の間だからだろうか？

ああ、相談業務

P80~

先人の知恵から

P202~

岡崎正明

私たちは毎日いくつもの強制参加クジを引いている。ときどき、そんな風に思うことがある。

クジの名前は「病気」「事故」「天災」など多種多様。それは生きている限り絶対に引かなければならない。金持ちだろうが老人だろうが、美人だろうが赤ん坊だろうが関係ない。棄権はできない。そして当たりが出たら否応なく従う。そういうルールだ。「運」といってしまえば身もフタもないが、しかしそうとしか言えないものが存在していると思う。そんな境遇の人をたくさん見てきたし、おのれの人生でもたまたま「よりによってなんで俺？」と思う瞬間に出会ってきた。

もちろん若干の努力が認められる余地もあり、例えば適度な運動や健康に気を使っている人は、「病気」のクジを引くとき、当たりが少ない箱になる。反対に不摂生

なヤツは当たりが数倍の箱から引くことになる。でも、それもあくまで確率の問題で、当たりが少ない箱の方でも当たる運の悪い人はいるし、反対に当たりが数倍の箱を長年引いても、まったく当たりを引かないのかもしれない。そういうヤツは「体質」とか「遺伝」とかのクジで、イイ方の当たりを持ってたり(笑)

だから私は「自己責任」という言葉があまり好きではないのかもしれない。そして、そんな不条理と付き合っていくしかないのが人生だからこそ、やるだけのことをやろうと思う。できないことは嘆いてもしようがない。それでも後から「もっとこうときゃよかった…」って思うこともたくさんだが、まったく後悔のない人生なんてのも味に深みがない。だからよし！

ちなみに、「時代」「出自」「家族(パートナーをのぞく)」「上司」なんかも選べないからクジだけど、「政治」は選べるから一応クジじゃないはず。そう思って徒労感を感じても、なるべく選挙には行くようにしている。

役場の対人援助論

P126~

大谷多加志

4月から生活が大きく変わりました。前職を退職し、大学の特任教員になり、新しい非常勤の仕事を3つ始めました。そして、その全てが新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、それぞれに対応を要する事態となっています。人生で初めての転職で、不安の中の船出でした。予想外の危機もあり、一方で、思いがけない巡り合わせもありという状況の中、この先どうなるのかという不安と、まだ見えない展望が開けるかもという希望との間で揺れながら、日々を過ごしています。何にせよ、樂觀にも悲観にも決め込むことはせず、今の環境をまずは楽しみながら、自分にできることをひとつずつ着実にやっていくことに、まずは全力を注いでみようと思います。

新版K式発達検査をめぐって

P135~

馬渡徳子

皆様、如何お過ごしでしょうか。先ずは、今、こうしてあること、こうして連載に投稿できたことを、素直に喜び、感謝

したいと存じます。

振り返ると、この三か月間に、関連する様々な職能団体の総会や学会が、中止又は延期となりました。関連する諸会議も、様々なツールを駆使して、事を前に進めてきました。

今、私のパソコンのデスクトップには、新たに三つの「オンライン会議ツール」が、でんと乗っかっております。元々、機械ものを苦手と決めつけて、トリセツなるものも流し読みしながら、とりあえず実行!の大雑把な私にとっては、かなりしんどい(not 面白くも)プロセスでした。

しかしながら、私には、図々しい!という、強みがあります。大学院には、様々な国の留学生がいることから、国によっては、政策として、就学児の時期よりタブレットを活用してきた経験を持つ方々もおられることが判明。そこは、おばちゃんパワーで、スマホ片手に電話やメールや写メを駆使して、パソコンに向き合いながら、粘り強く教えて頂き、何とか今があります。

一方で、歴史的なアナログ手段の価値や、人生の先輩方の素敵な対応や、改めて地域の社会関係資本について、気付くことも多くありました。

そこを、今回は「馬渡の眼」で記載したいと存じます。皆様、今後とも、心を込めて、どうか、ごきげんよう! 深謝のうちに。

馬渡の眼

P181~

団士郎

コロナ禍の渦中、わが家にも緊急事態が起きました。本人の了解を得て、正確にお知らせしておきたいと思います。

5月4日、GW まっただ中、院内感染のニュースも騒がしい時期に、痛みと出血を訴える妻を、病院の救急外来に連れて行くことになりました。

CTの後、そのまま入院。大型連休明けの諸検査の結果を12日夕刻、医師の指示に従い、関西在住の次男を伴って聞きました。

胃癌、腺癌、ステージIV。CT画像ではあちこちのリンパ節に転移がみられ、内視鏡映像は、自分の胃カメラ映像を見たことのある私と次男が、オオーと声を揃える厳しいものでした(素人目にですけど)。

そして、今後の対応として、抗がん剤治

療と緩和ケアの説明を受けました。手術や放射線治療など、局部治療の段階ではないということです。

翌日、知人の医師に状況を伝え、意見を聞きました。妻も友人関係の消化器内科医から助言を受けました。

そして SOX 療法を開始する事になりました。この後は定期的な通院点滴治療になるとのことで、19日に退院、自宅療養となりました。

この間、コロナで病棟は面会禁止、家族の立ち入りも制限されていました。自宅に戻っても、病人にとってコロナも要警戒です。厳しい状況ではありますが、出来ることをして過ごしたいと思っています。

私にはほとんど馴染みのなかった看護生活が約一ヶ月経ちました。

あらためて、こういうことに遭遇するのが家族だなあと噛みしめているところですよ。

「続・家族理解入門」最終回 P50～

鶴谷 圭一

新型コロナウイルス感染予防下の幼稚園をレポートしました。

この期間、僕自身は、職員が交代勤務で自宅待機している中毎日毎日出勤していました。気がつくと4月下旬から5月下旬までたった2日しか休んでませんでした。

イレギュラーって、ほんとに忙しいですね、計画変更や対応のためのガイドライン作り、情報の収集、発出する文書作りなどなど…その間に、パソコンの入れ替えも2台やりましたがね。

それにしても、たまに出勤した職員のお喋りが止まりません！次から次へと立ち話が続く、ああ～密が濃い密が…と思いますが、仕方ありませんよね、人とのふれあいが好きで仕事にしている人種ですから。ひとしきりお話を楽しんでもらいましょ。

原町幼稚園 <http://www.haramachi-ki.jp>

メール office@haramachi-ki.jp

インスタ haramachi.k

ツイッター haramachikinder

幼稚園の現場から

P62～

水野スウ

この数ヶ月の新型コロナ下、マガジン執筆者さんたちはどのような日々を過ごされたのだろうと、今号の短信を読ませていただくことをいつも以上に楽しみにしています。

今回の私の原稿は、コロナの影響を受けつつも、20年続く金沢の市民アクション、「ピースウォーク金沢」を、いつもとは違うスタイルで、でも私たちが実現させるまでの物語と、緊急事態宣言が出てから思い立ってはじめた「#離れているけどつながってる ぷろじえくと」のことを。

4半世紀前に書いた本『出逢いのタペストリー』を、5月いっぱい、ご希望の方にプレゼントします、と宣言して、連休中もそのあとの5月の日々も、この本を発送し続けていました。お金を介在させないものの発送は、経済活動には結びつかないけど、それに代えがたい、きもちのやりとりがひんぱんに行き来して、本を贈った以上の有形無形のお返しをたくさん、今現在も受け取っています。つながりの再確認もあれば、あらたなつながりも生まれています。



週一の「紅茶の時間」はコロナ中も今も、ひっそり静かにお寺のように毎週あけています。緊急事態宣言の出ている間は誰も来ない日が何週も続き、これは37年間の紅茶の歴史始まって以来のこと。紅茶の時間って、そこに器だけあっても、紅茶の時間にならない。ひとが自由に集まって、顔あわせて、きもちを語りあう、という中味があつてはじめて、紅茶の時間になるのだなあ、としみじみ感じています。今また少しずつ仲間が戻ってきつつありますが、

これまで以上にはやらないでしょうから、その分、初心にもどって、丁寧に一人ひとりを聴いていきたいと思っています。
#離れているけどつながってる ぷろじえくとを紹介する記事もここに。

きもち言葉をさがしている P105～

荒木晃子

「研究者になりきれない」。これが正直な今の気持ち。調査対象が当事者であること、ヒアリング調査や質問票により客観的なデータ、統計を導き出すこと、こういった作業が私は苦手だと最近気がついた。私にとって、当事者とは援助を必要とする人々であり、援助者は、当事者を援助するために存在する。援助者は皆、これまで、そして今も、これからも学び続ける一私自身もしかりである。

ではなぜ、自分は研究者であり続けるのか。いくら自問自答してみても、今のところ答えはみつからない。強いていうならば、援助は目の前の当事者に対して行うことはできるが、そこから汎化する事は、まずあり得ない。しかし研究は、その成果如何では、多くの援助者、研究者、教育者、医療・福祉従事者の目に留まることがあるかもしれない、という望みがある。望みがあることには、チャレンジする価値がある。それを信じ、行動に移すこと—それが、心理カウンセラーとして、常に私がクライアントと共に目指す援助のかたちである。クライアントにいつも伝えていることを、自ら実践するのみだ。

生殖医療と家族援助 P84～

中村 周平

申し訳ありません。今回、私の見通しが悪く、原稿を書き上げることができませんでした。次回以降、またよろしく願いいたします。

前回、短信を書かせていただいた頃は、聞きなれない言葉ばかりだったものが、今となつては聞かない日は無い日常になってしまいました。歴史を遡れば、このようなことは幾度となく起きてきたことかもしれませんが、実際に身近で、しかも通りを2つ挟んだ向かいの病院で未知のウイルスが発生したと知れば、本当に生きた心地

がしない毎日です。少しでも、日常を取り戻していければと思いつつ、自身のやりたいこと、やるべきことをしっかりとこなしていきたいと思います。

ノーサイド

山口洋典

おそらく気づかぬまま「コロナ禍」を「コロナ渦」としている表記を何度か目にしています。渦のような不可抗力に巻き込まれているという身体感覚が、無自覚なままにその表記へと誘っているのかもしれませんが。ちなみに立場もあって、緊急事態宣言の発出に伴い「明日からキャンパスが閉鎖になる」ということを、学生よりも少しだけ早く通知されたのですが、オンライン授業となっているにもかかわらず校内に足を運んでキャンパスライフを楽しんでいる学生たちの姿を目にして、情報の非対称性によって物事や出来事への認識は大きく異なるのだろう、ということを感じました。転じて、仮に「世界は明日で終わるよ」ということを知っている人がいても、私はそれを知らずに自らの日常を楽しみたいという人は多いだろう、などと、在宅にて思考実験を重ねることが多い「ウィズコロナ」な今日この頃です。



4月7日 15:16 の立命館大学
衣笠キャンパス東側広場の風景

PBLの風と土 P216~

見野 大介

コロナウイルスの影響により、予定していた展示会やイベントが中止になったのは痛手でしたが、工房兼住居でひたすら制作しているのが日常なので、普段の生活に関して言えば以前とほぼ変わってないのが現状です。マスクの消費量も少なく、5枚も使っていないと思います。

変わったことと言えば、保育園が閉鎖されて利用できなくなったことで2才の息子

が工房内でやりたい放題して、仕事の邪魔をしてくることくらいかと。息子の年齢的には今が一番色んなことを吸収する時なので、保育園で息子が皆と楽しく大騒ぎする日が戻ってほしいです。

仕事にもっと集中したいという、父のワガママもあることは否定できませんが(笑)

ハチドリ器 P4

千葉晃央

4月から通勤ががらりと変わった。これまでも私は京都に住んでいることを結構楽しんでた。古いものが基本的には好きなのである。夢は「嵐電で通勤」と思っていたが、それも実際にする機会があった。とはいえ、16年ぐらい車通勤が中心だった。一つの職場にしか行かない日(めったになかった)は数百歩しか歩いていないとスマホに言われることもあった。

現在は、公共の交通機関、自転車、徒歩ばかり。1日8000歩ぐらいは平均してもいいのではないか。一気に体重が落ちる。昼食の量のコントロールも体にきいてみるとわかってきた。着る服の幅が広がり、体が軽い。足の筋肉もいい感じで疲労も適度にある。健康には近づいた実感が強い。

仕事場が変わったので歩いて移動すると街がよくみえる。この間、コロナの影響はすさまじかった。南座の前のバス停を下車して、花見小路を通り、風神雷神の臨濟宗本山建仁寺の前を通り、八坂の塔を見て通っている。

もう一つの仕事場は、五条楽園という元遊郭街の近く。現在はオサレ化してその名残を生かして、その風情も印象深い。京都に住んで、20年以上たつがこういったところはめったに行かなかった。

清水のあたりにおられた以前の利用者さん親子を思い出す。今は、お母さんもご本人も亡くなってしまった。「ハッピー六原で買い物してん！」とよく話されていたのはこだったんだ！と。そして、お母様の凜とした姿勢も生き様も、この街並みを見て、暮らす人々を見て、今ならわかることが増えた。ハチチそこそこの学生に毛が生えた私には何もわかっていなかったなあ。

家族支援と対人援助 **ちばっち**

chibachi@f2.dion.ne.jp

090-9277-5049

援助職の未来

P18~

脇野 千恵

前回、マガジン40号の原稿を送ったのが2月下旬。3ヶ月の間に、社会の暮らし方がこんなにも劇的な変化をするなんて…誰も想像しなかったでしょう。テレビもラジオも新聞も決まり文句は「新型コロナ」。現在教育現場に近い部署で働いていますが、聞こえてくるのは、教員の多忙さと益々煩雑化する勤務体制への不満です。子どもたちが3ヶ月間学校へ登校しないという初めての経験。先行きは不透明のままの学校再開です。

「自粛と要請」といったちぐはぐな言葉の羅列や、ソーシャルディスタンスなどカタカナ言葉にイライラする毎日。そして、数字ばかりを追いかけて、感染者一人ひとりの顔や生活があることを忘れてしまっている自分に気づき、もし自分が感染したら？と想像し不安になってしまったり…。感染させてしまいうリスクを考えなくてはならないのは自分なのに。

ごく最近手にした本で、感染渦中に若いイタリアの作家が著した『コロナの時代の僕ら』があります。彼は、「今までと違った思考をするための空間を確保しよう」と言っています。私も含めいつまでも元の生活に戻りたいという人々へのメッセージ。そうだよねと頷いてしまいました。今できる事をしておこうと思います。

こころ日記「ぼちぼち」part II P268~

竹中 尚文

ステイホームで、お家で料理をする人が増えたという。同好の仲間が増えるのは嬉しい。今回は、これまであまり料理経験の少ない人を意識して料理を紹介したい。素人料理の場合は失敗する楽しみを大切にしたい。失敗したときこそ、次回の料理のエネルギーだ。

今回の料理はシーフードリゾット

【準備するもの】

トマトソース(市販のものを購入もあり)、

トマトソースを作る場合(ニンニク、タマネギ、トマト、紙パック、塩、胡椒、オリーブオイル、赤唐辛子、あれば月桂樹の葉)

冷凍シーフードミックス、ツナ缶、チューブ入りニンニク、チューブ入りショウガ、チューブ入りアンチョビ、お湯、コンソメ顆粒かキューブ、冷ご飯、胡椒、粉チーズ、オリーブオイル

【手順】

トマトソース(市販のものを購入した場合はこの手順はカット)

最近トマト缶より、紙パック入りのトマトが多くなった。紙パック入りは、容器を捨てるのが簡単。何より、安全である。トマト缶を購入するときの注意は缶がへこんでいないこと。賞味期限より大切。トマトは酸が強いので缶の内側がコーティングされている。へこんでいるとコーティングが破れている可能性がある。

トマトパック1箱(私はカットトマトが好み)、タマネギ中3個

- ① タマネギをみじん切りにする。できるだけ細かく。
- ② ニンニク2カケほどをみじん切りにする。厚底鍋か大きめのフライパンにオリーブオイル多めに引いて、ニンニクと赤唐辛子1本入れて軽く炒める。みじん切りのタマネギを入れる。塩を加える。塩は気持ち少なめ、そのための赤唐辛子。タマネギは焦がさないようにしっかり炒める。ここで甘みを出す。赤唐辛子を取り出しておく。
- ③ トマトパックを投入。胡椒と月桂樹の葉を入れて、焦げ付かないように混ぜながら煮込む。味見をして終わり。塩味を控えめに。

※ 多めに作って、分けてストックするのもいい。

シーフードリゾット(量はご飯の量を決めて、それに合わせてシーフードの量を決める)

- ① 厚底鍋に多めにオリーブオイルをひく。鍋が熱くなればニンニクとショウガとアンチョビを入れてシーフードミックスを入れる。(イカやアサリやエビを別々に買った方が美味しい) ニンニクとショウガはシーフードの生臭みを消すため、アンチョビは塩味のため。そのつもりで量を考えてほしい。
- ② シーフードは何か火が通った程度で、ツナ缶を開けて投入。熱いお湯を入れる。お湯の量はご飯と同じくらい。コンソメの素を加える。味が濃くならないように注意。

胡椒を入れる。

- ③ 冷や飯を入れる前に、電子レンジで少し暖めるとほぐれやすい。ご飯をゆっくり煮込む。見た目で食べたくになったら、火を止める。
- ④ 食べるときに、塩分が足りないと思えば粉チーズをかける。

今回のバックミュージックは“Disney Songs the Satchmo Way”邦題「サッチモ・シングス・ディズニー」

もう3~40年前に友人がこのアルバムは面白いよと教えてくれた。ルイ・アームストロングがディズニーソングを歌う。人生に何度か下を向いたときに、この曲が元気をくれた。カラ元気だけでも、前を向かせてくれた。

『盆踊り漫遊』

P112~

サトウタツヤ

オンライン授業、いろいろ迷ったすえ、説明入りPPTとツイキャスによるラジオにしました。金曜午後3時、定時のラジオ配信は思ったより大変で、構成作家や音響技術者やディレクターが必要だとわかりました。幸いにも定時配信は多くの学生さんに好評ですが、ツイキャスというシステムのわかりにくさ故の苦情もあります(Youtubeにしてほしいとか)。前期の間はニューノーマルで頑張っていきたいと思います。

対人援助学&心理学の縦横無尽

P93~

中村正

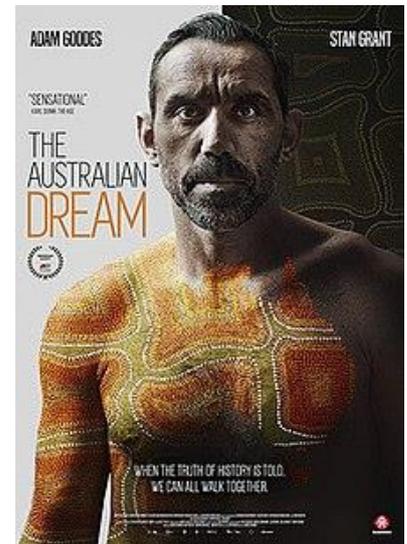
前号の近況で記したようにコロナ禍が全世界を覆い尽くす直前の今年2月にオーストラリアにでかけた。利用したカンタス航空で「The Australian Dream」という映画を観た。感銘を受けた。著名なフットボール選手、アダム・グッジ Adam Goodes の物語である。

2013年5月13日の試合中のこと、観客席から「猿！」と彼に向かって悪罵が投げつけられた。彼はアボリジニである。それは13歳の少女の声だった。グッジは彼女を指して批判をした。その後、教育がなされていないことが問題だとしてオーストラリアあげての取り組みへと発展していった

様子を彼のライフストーリーとしてドキュメンタリー化したフィルムである。

そういえばこの視察で不思議に思ったことがあった。いくつか訪問したが、会議が始まる前に主催者が「ここは先住民の土地です。そのことに敬意を払います。」と必ず述べていたことだ。これは以前にはあまりみられないことだった。この事件以降のことだろう。もっと調べてみたいと思った。残念ながらこのフィルムは日本では観られない。かろうじて予告編をネットで観ることができるだけだ。

このことをここに記そうと思ったのは、アメリカでまた黒人が警察官によって暴力を受け亡くなったからだ。コロナ禍はあらゆる世界の脆弱性を浮かびあがらせている。しかしそれは以前からあった問題でもある。オーストラリアではこのことを契機にして教育用のサイトが整備されている。このフィルムのことも紹介されている。映像教材もあり、学校教育から社会教育までいろいろな角度から視聴できるよいサイトが構築されつつある。



臨床社会学の方法

P23~

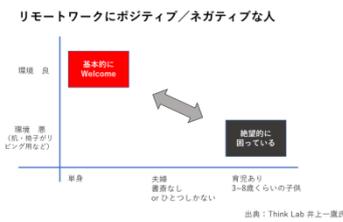
乾 明紀

41号は休載とさせていただきます。コロナ禍で保育園が休園となり、未就学児2人を抱えて思うように仕事ができませんでした。子どもたちにテレビやスマホを見せ続けることなどでできず、連日、朝から夕方まで生まれたばかりのバッタやハナムグリなどの昆虫を採ったり、カエルやトカゲ追っかけたりしていました。また、お

風呂に寝かしつけと本当に子供中心の生活でした。

そんな子守が続く中、大学の授業が始まり、一時は精神的にもかなり追い込まれたりもしました。下図のように単身だったら生産性は大きい上がったのだろうなと思いつつも(そんな焦りやイライラを抑えながら)、子どもの将来のためと自分に言い聞かせながら、非常に濃密な時間を過ごしました。

仕事が色々溜まってしまい、現在リハビリ中ですが、次号には復帰できるようにしたいと思います。



周旋家日記 休載

寺田 弘志

3月から5月にかけて、新型コロナウイルス感染を避けて、通院を自粛される患者さんが寺田接骨院では相次ぎました。患者さんが減った分ひまになった・・・ということではなく、従来以上に感染防止対策を講じたため、施術以外の業務が増え、忙しくなりました。

また、感染防止対策について調べなければならないことが増えたり、対策に必要なものを探するのに時間がかかったり、注文したものがなかなか届かなかったり、やっと届いたと思ったら不良品だったりして、そういうことにも時間をとられました。

対人援助に関わる皆様も、新型コロナウイルス感染拡大防止のために、日々さまざまな取り組みをなされていると思います。

当院では、新型コロナウイルス流行の前から、アルコールや塩化ベンザルコニウム(逆性せっけん)などを使って、感染予防をしてきました。また、マスクやアルコールなどの衛生材料を多めに仕入れて、患者さんにも安く(医療用サージカルマスク50枚200円、アルコール500cc300円、塩化ベンザルコニウム500cc350円など)お分けしてきました。

いつもなら安くても少しずつしか売れな

い衛生材料が、新型コロナが流行りだしたとたん、あっという間に売り切れてしまいました。

困ったのは、アルコールが仕入れできなくなったことです。治療機器やベッド、枕をアルコール消毒しているので、結構、アルコールを消費します。塩化ベンザルコニウムは薄めて使うので、当分もちそうですが、アルコールは薄めずに使うので、早く底をついてしまいます。しかも、塩化ベンザルコニウムはウイルスに対しては効果が不十分だと厚生労働省の資料にあるので、アルコールの代用品にはならないようです。

たまたま叔父がアルコールを輸入する仕事をしていたので、入手できないかたずねてみました。しかし、アルコールが高騰して採算がとれないため、取扱いをやめてしまったというのです。日本国内ではアルコールは生産しておらず、中国やブラジルから輸入するしかありません。中国は輸出を制限しており、ブラジルに注文が集まっていますが、ブラジルで感染爆発が起きています。国内で酒造メーカーが、消毒に使えるアルコールを作り始めましたが、生産量も少なく、割高です。

幸い、叔父が取引先からアルコールを譲り受け、送ってくれたので、しばらくはしのげますが、これからもアルコール不足が続くそうです。アルコールが不足する中でもしっかりと除菌していくために当院で取り入れたことを、記事のほうで紹介してみます。

接骨院に心理学を入れてみた P222～

浦田 雅夫

ズームによるオンライン授業の毎日です。「起きてすぐ 時計を見たら もうお昼」という学生の川柳にあるように自粛期間は昼夜逆転の学生もいたのだと思いますが、オンライン授業の出席は皆さんすこぶるよい感じです。

社会的養護の新展開 P60～

小池英梨子

私のライスワーク兼ライフワークの「ねこから目線。～ノラ猫専門のお手伝い屋さん～」ですが、開業からの捕獲成功頭数

が1,000頭を超えました。

ボランティア活動をやり続けるためには、脱ボランティアをして、継続できるシステムを作ることが本当に大切なんだなと実感しました。



そうだ、猫に聞いてみよう P194～